

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第918号 平成27年4月21日

## 偕老同穴

4月22日は「良い夫婦の日」です。

これは、講談社が1994年に提唱したという事になっています。

4月22日が何故「良い夫婦の日」なのかというと、要するに「四」と「二」「二」の語呂合わせに過ぎませんが、しかし、何にせよ、普段は忘れがちな(?)夫婦が、お互いを思いやるというのは大変大事な事だと思います。

夫婦の記念日としては、

- 毎月の22日：夫婦の日
- 2月2日：夫婦の日
- 11月22日：いい夫婦の日
- 11月23日：いい夫妻の日

というのが夫婦に関連した記念日となっています。

「そんなにしょっちゅうカミさんの事を考えてられるか！」等とうそぶいている男性諸氏には、いずれ奥様から逆襲されるだろう事を覚悟しておいてください。

ところで、上述の「いい夫婦の日(11月22日)」には、「いい夫婦の日をすすめる会」が毎年「夫婦」をテーマとした川柳を公募しており、優秀な作品が表彰されていますので、それを幾つか紹介しましょう。

まず、大賞を取った波多野千湖さんの作品です。

「いい親で あるより先に いい夫婦」

確かに、夫婦が何時も喧嘩して険悪な状態では、子どもは真直ぐに育つはずはありませんよね。

次に、企業賞を受賞した2作品です。

「スカイプで 単身赴任の キミと呑み」という渡部佐智子さんの作品は洒落ています。夫を「キミ」というあたりは、夫婦の力関係さえも想像させて面白いですね。

もう一つの作品は、橘孔雀さんの

「ただいまの 時間に炊いて あるごはん」です。

この作品は、自分が帰宅する時間を見計らっていつも炊き立てのご飯を用意してくれる妻への感謝の気持ちを表しているように感じます。もっとも、皮肉れた人の

中には、「旦那が帰宅した時にお出迎えしているのは、炊飯器の温かいご飯だけじゃないのか」と曲解する人もいるかも知れません。

優秀賞作品にも、心に響くものが幾つもあります。

腹害亭びい助さんの作品、

「ごろ寝する 夫に添い寝 しようかな」

こんな事、いわれてみたいような、いわれたら怖いような複雑な心境です。

ゆみっちさんの作品、

「空気ほど 軽くないわと 笑う妻」

笑いながらいう所に、凄味があります。

そして、こんな作品が目につきました。

これは松谷一さんの

「日常が 流れるごとく 老夫婦」という作品です。

若い頃は色々あったかも知れないが、今は老夫婦の中に、静かな時が流れているという事でしょうか…。

ところで、愛し合い、信頼し合っている夫婦の事を「偕老同穴」と表現します。これは、夫婦となった男女が、共に暮らして添い遂げ、死んだ後も同じ墓に入るというもので、夫婦の信頼関係の篤さを表現しているのですが、3組に1組は離婚しているともいわれる今日では、「あなたと同じ墓には入りたくない」と明言される奥様もいたりして、「偕老同穴」という言葉は実感の薄いものになりつつあります。

さて、4月22日を語呂合わせで「良い夫婦」の日とするなら、6月22日を「老夫婦」の日にしても良いのでは、と思っています。高齢化が進み、老夫婦2人の世帯が増えていますので、6月22日を老夫婦がお互いを思いやり、また、地域の皆さんが老夫婦世帯への関心を持ってもらう日としては如何でしょうか。私の勝手な提案です。

我が老夫婦は、今のところ忙しい日々を過ごしており、とても静かな時間の流れを感じるゆとりはありませんが、たまには「ありがたい一言位いわなきゃならないな」と感じている今日この頃です。

(塾頭：吉田 洋一)